



フィロ としての 文・絵・写真

稲

葉

ひい び 0 ち か せ 7 v 3

時とは何かと考えてみると、 身体と宇宙の時間とが尺度になって ジ天文台などの時間は必要なかった そこに時計やカレンダーやグリニッ 子どものころの自分は、 「身体感覚の時間」を生きていた 自分自身 自分の

児から人体ができる発生の段階でも な時間 の自転や公転のリズムでもある。 の地球と太陽の関係性であり、 巡るリズムだ。 外的な光と闇のリズムが内在化した を想像してみる。 まったく時間の物差しがない場所 の基準は、 と闇のリズムであり、 の基準を考えてみると、 息) (血潮)」。 それは、 呼吸と心臓のリズム と「こどう(鼓動)」 そこでの短期的な 一方、 宇宙空間で 季節が 長期的 地球 昼と 胎 う。 8

目覚めのリズムとなる。 のリズムとなり、 松果体から放たれるメラ 人間の 眠りと

り、

にならない感覚を表現している。 うしても短期的な視点になってしま 必要がある。 早く浅くすれば くす られるものだ。 吸と心臓のリズムのあり方から感じ ムで というオノマトペは、 とよくわかる。 には、 換えれば、 内的な時間は、 まここ」という時間感覚も、 それは自分の体で実験してみる れば、 呼吸をゆっくりと深くする 時は たり 呼吸が早く浅いと、 長期的な視点を持つた 呼吸をゆっくりと深 イライラ・ソワソワ "伸びる"。 呼吸と心臓のリ 時は , 縮ん" そうした言葉 ,縮む"。 だりする 呼吸を 2 100 呼 ズ

手の時間を感じ、 を聞 を聞 を澄ませている とがある。 一聴診で相手の心音を聞くとき、 いているのだが、 いているのか」と尋ねられるこ 専門的には心雑音の有無 相手のリズムに耳 大局的には相 何

音を聞き、

内的な自分の体の音を聞

時を感じることは、

外的な自

然

0

の前の人が 楽器は? リズムは? その音楽の指揮者は? 一音楽」 だと仮定し 楽 音

団は?

の空間はつ……と考えてみるとい

人体の音楽そのものを聞くため

聞いているだろうか

てみる

俊 郎 (12) の音は、 行く なぜ と音楽にあらゆるジャンルが クラシック、ジャズ、 るように、 、のだ。 その人の調和の音を聞きに いまこの音楽なのだろう 何 目の前のこの

音にも、 様な音が多重に重なっている。 雅楽や謡曲 史なのだと分かる。 ズの中に無限の音響を感じ取った歴 0 適切な光が当たっていないものだ。 だ意識化できないものであり、 が ことと似ている れだけ同時に聞き取れるか、 は わかってきて、 ましていくと、 人間の音、 響きを聞いているときにも、 イズとは、 あると分かる。 人体という多様な響きの音をど 風の音、 虫の音、 情報量が多すぎていま 三味線や尺八などの音 ノイズにも深い意味 ノイズの存在意義 水の音、 その人にとっての 実際、 光の音……、 自然界の 雨の音 という それ 多

ズムが内在していると分かる。 くっている ちは全体的で総合的なリズムを形づ て聞いていると、 呼吸や心臓のリズムを入り口とし 人体には多様なり い

そこには必然性と原理原則があ に耳を澄ます。 ろいろな発見がある。 そこを細 異常とされるものでさえも かしらの必然性があ いのちがつくる調和 かく読み取くよう そうして耳を澄 伝統音楽 0 は

私が人体の音を聞くときの大きなヒ 築するという観念を捨てたい。 ントになった。 ない。」(『音、 えるほどに強いものでなければなら を刻んで苦しい一つの音を得たいと 0 5 3 あ に」新潮社刊) 音がある。 の生きている世界には沈黙と無限 る自然界を静寂にさせる必要があ 武満徹さんは、「私はまず音を構 自分の思考を沈黙させ、 そして、 沈黙と測りあえるほど 私は自分の手でその と述べていたことは それは沈黙と測りあ 内部に 私た

に耳 なたは、 くことが基礎にあると思う。 0 の調 どんな人の中にも、 を澄ませている。 0 診察室で人間のいのち 和の音が聞こえてくる。 毎日そうしたいのちの音を 生きて いのちそ いる 0

上

to

1979年熊本県生まれ。医師、医学博士、東京大学医学部付属病院循環器内科助教(2014-20年)を経て、2020年4月より軽井沢病院総合診療科医長、信州大学 社会基盤研究所特任准教授、東京大学先端科学技術研究センター客員研究員、東北芸術工科大学客員教授を兼任(「山形ピエンナーレ2020」芸術監督就任)、 2022年4月より軽井沢病院院長に就任。在宅医療、山岳医療にも従事。単著「いのちを呼びさますもの」(2017年、アノニマ・スタジオ)、『いのちは のちの いのちへ』 (2020年、同社)、「ころころするからだ』(2018年、春秋社)、「からだとこころの健康学』(2019年、NHK出版) など。www.toshiroinaba.com

いなば・としろう